



世界3大サーカスに数えられ、100年以上の歴史がある木下大サーカス、社長さんが校友とお聞きし、それであれば一度見に行こう、というわけで同じ校友である妻と一緒に見に行きました。

1月2日。午前中に町田の校友の皆様と一緒に藤沢の校友の皆様のところにお邪魔して、駅伝を応援し、町田に戻り皆様と新年会、そして夕方から木下大サーカスという、図らずも明治大学デーとなりました。

場所はモノレールで立川から北に少しいった高松という駅から徒歩3分くらい。降りたらすぐに会場がわかるようになっています。あきらかにサーカスに向かうと思われる家族連れも多くいます。自由席と指定席があり、我々は追加料金を払い指定席にしましたが、満員というわけでもなかったので自由席でも早めに行けば結構よ

い席に座れそうですね。売店にも関連のグッズがあり、ついワクワクして応援用に光るウチワを購入し、準備万端。たまたま真正面の2列目の特等席でした。

さて、開始。椅子の上でパフォーマンスをしていた人が、さらに椅子を積み重ね、最終的には7つの椅子を器用に立てた上でポーズをとるという人間離れした技を披露。5Mはあるであろう梯子を人が肩で支え、その梯子の上で器用に逆立ちしたり踊ったり。シマウマに障害を飛ばせたり、ライオンに指示して従わせたり。よく言うことききますね。

マジックショーでは想像もつかない入れ替わりがあったり人間の切断があったり。途中途中でクラウンたちの面白芸があったり。ジャグリングも成功したときには演者も観客も一緒になって喜びました。



そして目玉の一つとしてバイクショーがありました。

狭い球体の中をバイクが360度走ります。1台が走るだけでも怖いのに、最終的には3台が増えて、縦横無尽の走っているのですが、どう考えてもぶつかるのではないかと気が気でなりませんでした。しかも中にただ立っている人もいるという……。恐ろしかったです。ほんとやめてほしいです（笑）

ラストは空中ブランコショー。

器用に飛ぶばかりか、逆につかんだり、目隠ししたり、わざと落ちたり……。

はらはらしながら見守りましたが、ほんと上手にやるものですね。

息もつかせずあっという間の2時間でした。

観客は小さな子ども連れも多かったですが、サーカスは決して子どものためだけのものではありません。むしろ長年の経験で人間の限界を知ったつもりになっている我々大人こそ、人間の可能性の広がりやを改めて知る良い機会になるのかも知れません。（壮大な感じで言ってみました）

結果として大変楽しく見る事が出来て、涙がでるほど感動し、最後には手が痛くなるほどの拍手を送りました。

感動のあまりパンフレットも購入し、家に帰ってじっくり読みましたが、一つ一つの演目にも途轍もないひらめきと努力と苦勞があり、

相当練習して、相当ケガも経験されているようです。

実は私、サーカスが好きなのです。

サーカスは人間離れをした演目を軽々行う演者対、それを楽しむ我々観客、ではないと思っています。演者は軽々行っているのではなく、常に真剣に今までの努力をこの一瞬にかけます。

さっきまで主演で演目を行っていた人が補助に回り、裏方として今スポットライトが当たっている演者の成功を祈ります。

そして会場にいる我々も一体となって成功を祈り、演者に期待します。

会場全体で成功を願い、全員から任された演者が演目を成功させる、そしてその演目が成功したときのあのやり終えた嬉しそうなドヤ顔、それを全員で喜ぶあの一体感。

いやあ、気持ちいいものです。

私はサーカス系のイベントは機会があれば見ているほうでして、その中でいうと、木下大サーカスはひとつの演目に特化しているのではなく、多岐にわたる演目にそれぞれ世界中から第一人者が集まっているような、いわゆるザ・サーカス、サーカス界のごった煮、王道中の王道と感じました。

私のつたない文章であの感動を表現するにはあまりにも失礼とも思いましたが、一人でも多くの校友の皆様と感動を分かち合いたいと思い書きまして、ぜひご興味を持たれましたらご覧いただきたいと思います。





木下サーカス株式会社
代表取締役 社長
木下唯志
(経営学部 73歳)

永い歴史を持ち日本の
伝統芸能の至宝とも
いわれる木下サー
カスが、創立120年

を迎えられたことは慶びにたえません。この
機会を得て、サーカスの起源と現在のサーカ
ス像、そして将来展望について考えてゆきた
いと思います。

1902年、初代木下唯助が木下サーカスを創
立して以来1世紀を越えました。創業期から発
展・充実期へと、2代目木下光三の天性の経営
手腕の発揮と、3代目木下光宣の優れた指導力
によって、多くの困難を克服し、発展を遂げ
てきました。120周年を迎えた今日、1億人
を越える観客の方々に、日本最大のサーカス
スペクタクルの生の迫力をお届けできました
ことは喜びにたえません。これもひとえに皆
様並びに関係各位のご支援の賜ものと心より
御礼申し上げます。

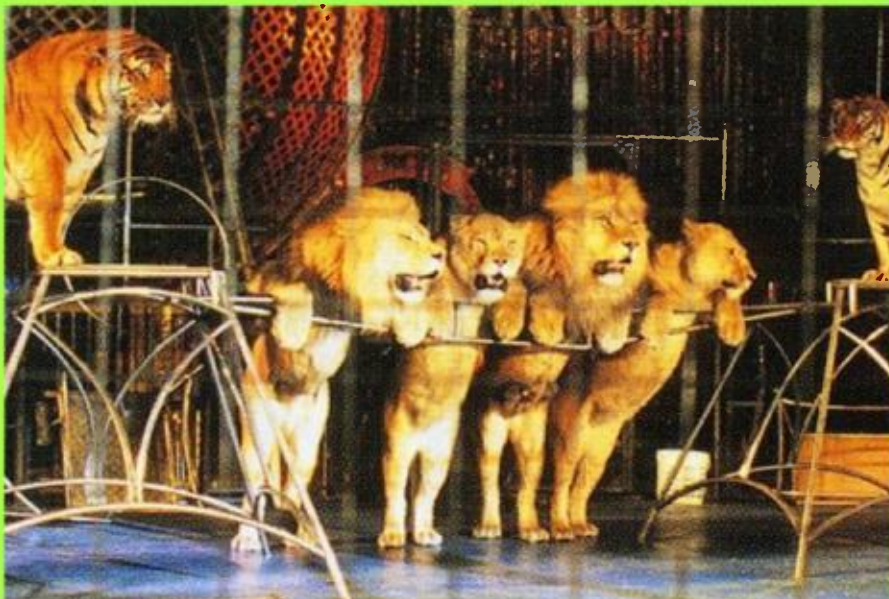
新世紀に向けて、サーカスはその魅力の全て
を集約し、多種多様な各種のエンターテイメ
ントに勝る企業として成長、発展していかな

ければなりません。現在成長しているハイテ
クアミューズメントに対し、サーカスの繰り
広げる生き生きとした魅力は逆に現代の人々
に新鮮なものとして受けとめられています。
魔法にかかった様な感覚や驚き、心が通い合
う質の高い感動体験を観客の皆様にお届けし、
ひとりでも多くのお客様にご観覧いただきま
すよう、今後とも様々な探究と発見を通して
新しい手法を日々見出して参る所存ございま
す。

新しき時代を迎え、木下サーカスは将来の展
望としてファミリーエンターテイメントの在
り方を再認識し、その本質を更に具体化する
努力を続けて参ります。伝統を受け継ぎ、多
種にわたるサーカスパフォーマンスの世界で
無比の優秀な舞台を築き上げる使命を念頭に
おき、サーカスアーティストの養成施設やサー
カスシアターの実現構想のもとに、若いパフォー
マーを育てながら、新しいサーカスとそのアー
ティストを生み出していく決意であります。

世界中のサーカスと切磋琢磨、競合しながら、
世界最高の魂の集団を目指して、夢と感動と
ロマンとエネルギー溢れる舞台を築いてゆき
たいと願っております。

今後ともサーカスの新世紀へ向けて、木下サー
カスの未来に対する変わらぬご指導、ご鞭撻
を賜りますよう心よりお願い申し上げます。
(木下サーカスHPより引用)



立川経済新聞より転載